

# 常國寺だより

2019年 秋号

## 微笑みと笑顔の力

衆徒浅尾妙綾

去る8月4日の深夜、全英女子オープンゴルフのテレビ中継でのこと、優勝した日本選手、洪野日向子さんの笑顔が話題になりました。

ビッグな大会に出場して緊張感は弱くはなかったでしょうが、彼女は、グリーンを移動中、終始、チャーミングな笑顔でギヤラリーや視聴者を和ませていました。その笑顔は、けっしてパフォーマンスではない、自然に彼女が身につけた表情のように思われました。

笑顔や和らいだ表情の大切さは、2500年もの歴史を持つ仏教でも、すでに説いています。

○ 「雑宝蔵経（ぞうほうぞうきょう）」という經典には「無財の七施（しちせ）」という教えがあります。漢字で示されているように、人に与えるような財（お金や財産）がない人でも、少なくとも七つの施し（ほどこし）を与えること）ができるという教えです。七つのうちのひとつとして「和顔施（わ

げんせ）」をあげています。「和顔」とは、和らいだ穏やかな表情、微笑みや笑顔のこと。和らいだ表情は、ご自身の環境の一部となつて、まずはご自身の心を和らげ、それと同時に、周囲の人たちの心をも和らげる環境となつて生活を輝かせます。

さあ、鏡の前で、かすかな笑顔を試してみませんか。それも社会への大きな貢献となるでしょう。



# 「真宗の伝流と大阪」

高田派青年の集い大阪大会

衆徒浅尾妙綾

六月末に高田派青年の集い「大阪大会」に参加してまいりました。

一日目は四天王寺に参拝し、二日目は大阪歴史博物館において表題の講義を受け、また、博物館を見学しました。そこで、今回は、真宗の広まりと大阪の成り立ちのご講義についてご紹介させていただきます。

講師は、大阪歴史博物館副館長の  
大澤研一先生です。

## 親鸞聖人の門流と大阪

大阪は、奈良、京都という伝統と由緒のある都市に近く、海にも面しているのです。古くから国内外を結ぶ交通の要衝として、また商業都市として栄えてきました。

大阪には、親鸞聖人の直弟子の伝

承のある寺院が三か寺あり、浄土真宗の布教活動が古くから行なわれていたことがうかがわれます。

大阪における真宗勢力の拡大には、真仏上人（しんぶつしょうにん。高田派第二世）の法流である荒木門徒の貢献があつたとされます。

荒木門徒は、荒川流域で布教活動を行ない、お裏書（經典の裏に注釈や解説を書いて理解を深める）を積極的に行ないました。その功績は現代にまで及びます。

その後、応仁の乱が起こり、戦禍を避けるために、仏光寺派の本山は、山地地域から平野部へと移転し、約20年間、その場を拠点にしたとされています。

## 大阪本願寺の時代

本願寺派の蓮如上人（れんによし）ようにん。第八世、真宗中興の祖）の代には、仏光寺派の四十二の寺が本願寺派に参入し、それらの寺が大阪における本願寺派の拠点となっていきました。その内七か寺に蓮如上人の実子七名が入り、それ以後、大阪の寺が平野部に広がっていききました。以前の信仰を踏まえて、真宗はさらに勢力を拡大します。

1522年、本願寺の直轄であった大阪御坊（先ほどの七か寺の一つ）に隠居した実如上人（第九世）が入寺し、1533年に親鸞聖人影像（木造）が山科から移り、その4年後に

は本山の機能が整ったことにより、大坂本願寺（現在の西本願寺派東本願寺派）が設立したと考えられます。

以後、大坂本願寺を中心として、教団が全国に拡大してゆき、それによって、大阪には坊主衆・門徒衆が各地から訪れるようになりました。

一方で、武士との軋轢が生まれ、「石山合戦」が勃発します。1570年～1580年の長期戦の末、正親町天皇の仲裁により、本願寺の退去で決着し、本願寺・寺内町は焼失しました。なお、石山という呼び名は当時ではなく、江戸時代に使われるようになったようです。

## 大阪の町と真宗寺院

石山合戦に関わった信長は、大阪に城を作る前に本能寺の変で亡くなり、その後、豊臣秀吉が大坂城・城下町の建設を開始します。人口が増え、寺院も他地域から移転したり創

建されたりしました。秀吉は、天満地区開発の足掛かりとして本願寺を招き、町づくりを行ないました。本願寺は、その後、本山を京都に移転させましたが、本願寺の別院（御坊）は大坂に置き、町の境となりました。北御堂（津村別院）、南御堂（難波別院）は、今日の「御堂筋」（みどうすじ）の語源にもなっています。

こうして、大きな寺院を中心に寺内町が形成されますが、真宗寺院の多くは寺町ではなく、道場スタイルで町中に分散していきました。

江戸時代になると、キリシタン禁制に伴う寺請制により、寺院が信徒の身分保障をするようになり、さらに門徒は増えていきました。

大阪には、近江商人が多くおり、信心が篤かったようです。ある近江商人の遺言状には「仏事の事、常々信心をもって臨み、他国へ入る時は

このような心がけを持つことが第一である」とあったそうです。商人の中には、寺院の鐘の音が聞こえる範囲に住み、朝から参拝するという人も少なくなかったようです。

## 講義を受講して……。

大阪大会では、大阪の高田派の方とお話する機会がありました。その方の寺院には墓地はなく、檀家さんへの「月参り」が法務の中心であると伺いました。檀家さんのほうは、毎月、お坊さんを自宅に迎えるのです。このようなお寺とお檀家さんとの密な関係を伺うにつけても、そこに大阪らしい温かを感じます。

ご講義からは、大阪の発展には、多くの真宗寺院が寄与し、それは、今に及んでいることを強く感じました。近江商人の遺言は、仏法の中に生活があることがまさに示されていて、感銘を受けました。

# 春夏秋冬お料理帳

管理栄養士 浅尾昌美

## 大豆でマメに手作りお料理

大豆はマメ科大豆属、一年生の作物で、日本人にとっては大事なたんぱく質源として、昔から重用されています。とくに殺生を禁ずる寺院の食材として、いろいろに加工されて利用されてきました。

大豆の種類は多く、種皮の色だけでも、黄、黒、緑、茶、赤、白黒の二色のまだら模様などいろいろ。

### ■季節感

私がよく使う大豆は、黄色と黒のものですが、梅雨の頃には緑の大豆をゆでて酢のものにします。このように、大豆にも季節感を楽しむ種類やお料理がたくさんあります。

### ■栄養価

昔から「畑の肉」と言われるのは、たんぱく質が35%、脂質20%、炭水化物28%という割合で含まれていて、作物の中では、良質のたんぱく質の割合が高く、これが動物の肉になぞらえる理由です。

### ■災害時に強い大豆

ドライパックや蒸した加工品の大豆は、常温でも保管ができるので、災害時のストック食材に適しています。加工した大豆製品（納豆や黄な粉など）は、そのまま使えるので、災害時や、たんぱく質がもう少しほしい、というときに重宝します。

### ◎「蒸し大豆の煮物」はこうして作ります。

今回は市販の袋入り蒸し大豆を使って、乾燥大豆を使うよりも短時間で煮物を作ることになります。

### ◎蒸し大豆の煮物

材料 二人分  
蒸し大豆 100g  
にんじん 30g  
乾燥昆布 2cm角1枚  
しょうゆ 大さじ1/2  
砂糖 小さじ2  
みりん 少々

- ① にんじんは小さめの角切り。乾燥昆布も小さい角切りにする。
- ② 鍋に1カップの水を入れてから昆布を入れ5分くらいおく。
- ③ ②の鍋ににんじん、大豆を入れて、ひと煮立ちさせ、砂糖を入れ2分煮る。さらにみりんとしてようゆを加え、弱火で5分煮る。

赤坂寺庵（てらん）精進料理教室の

ホームページ <http://akasaka-teran.net/>

常國寺だより

編集者 浅尾 妙綾

発行 真宗高田派常國寺